

令和 2 年度 法人事業報告

令和 2 年度は、法人設立 20 年を迎えた節目の年度でした。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会への影響が長期化し花工房福祉会の事業活動も大きな影響を受けた 1 年となりました。

方針にうたって来た、障がい者 100 人を超え支援する職員も 76 人と年々増加の傾向にある現状の中、今までのやり方をそのまま続けていては？という事で新しいことにチャレンジしていく姿勢が必要という事で方向を見出そうとしていたところだったのですが、今まで行ってきた事業ですらままならなくなり、年度当初は戸惑いさえ感じながらの日常でした。

しかし、毎日元気に通って来る障がい者の姿を目の当たりにする中、仕事を作らなくてはいけない、商品を買ってもらおう手立てを考えないといけない、障がい者の労働力を必要としている人がいるなら外に出ていこう等前向きの考えが生まれてきすこしづづ動きだしました。

その結果、200 人を超える方々からの応援をいただいて利用者・職員共々希望を以って仕事に専念することが出来ました。お陰様で企画した商品も多くの方々に喜んでいただき、仕事にも張り合いが持てるようになりました。それからは、お声をかけていただいたお仕事は、とにかくやってみよう和前向きにチャレンジし、活気のある作業場作になっていきました。

一方、労務管理の部分では労働時間の徹底を労基署から指摘され、12 月 23 日に全職員に対し「労働時間管理の徹底について」という書面を共有することで法人職員として一人一人が自覚をもって労働時間の徹底を図る工夫と努力を惜しまないことを確認し合いスタート致しました。

人材育成に関しては研修がリモートになったことで、時間も生み出せ多くの職員が自分が必要とする研修に参加でき、専門性を高めることが出来たことと、G 長会議で自主的に事業の方向を提案する場を作ったりした、日常の G 内の風通しも良くすることに心掛けお互いに、知識・技能を身につけていける環境も作れたせいか、年度末の退職者も少なく順調に進んでいる感があります。気軽に相談の出来る場づくりはこれからも大切にしていきたいと考えます。

共同生活援助住宅については、申請が遅れたため、令和 2 年度も見送りとなってしまいました。

1. 理事会・評議員会及び監査の開催

(1) 監査

期 日 令和 2 年 6 月 9 日(火)

場 所 花工房エコーンファミリー相談室

監査事項 平成元年度の事業執行状況及び財産状況について、関係帳簿及び証拠書類の照合監査を受ける。いずれも適正であることが認められました。

(2) 第1回 理事会

期 日 令和2年6月11日(木) 午前10時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 平成元年度事業報告(案)
第2号議案 平成元年度収支決算報告(案)
監査報告
第3号議案 ゆうゆう運営規程一部変更
第4号議案 法人事業の現況報告

(3) 第1回 評議員会

期 日 令和2年6月26日(金) 午前10時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 平成元年度収支決算報告報告(案)
監査報告
報告事項 ① 令和元年度事業報告
② ゆうゆう運営規程一部変更

(4) 第2回 理事会

期 日 令和2年9月25日(金) 午前10時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 法人の現況報告
第2号議案 第一次補正予算(エアコン工事含)

(5) 第3回 理事会

期 日 令和2年12月23日(水) 午前10時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 就業規則一部変更
第2号議案 法人の現況報告

(6) 第4回 理事会

期 日 令和3年3月23日(火) 午前10時～
場 所 花工房エコーンファミリー2階会議室
議 題 第1号議案 令和2年度補正予算(案)
第2号議案 就業規則変更
第3号議案 令和3年度事業計画(案)
第4号議案 令和3年度収支予算(案)

- 報告事項 1, 法人の現況報告
(7) 第2回 評議員会
期日 令和3年3月26日(金) 午後1時30分～
会場 花工房エコーンファミリー2階
報告事項 ① 令和2年度補正予算
② 令和3年度事業計画及び収支予算
③ 就業規則の変更

2、職員・利用者の動向(令和3年3月末現在)

- 職員数 76人(正規17人・嘱託17人・パート42人)
採用 7人(正規4人・嘱託1人・パート4人)
退職 3人(正規1人・パート2人)
利用者 106人(男性71人・女性35人)
入所 5人(男性2人・女性3人)
(事業所間移動 男性1人・女性1人)
退所 4人(他事業所へ移動 男性1人・女性3人)

3、事業内容

(管理部門)

- ① 健康管理・健康診断 健康づくり事業団の協力で7月15日(夜勤職員)と11月24日・25日(全職員・希望利用者)実施。歯科検診は、コロナ感染症拡大のため中止
- ② 食事提供 提供日数 241
川中島 一富士フードサービスに事業委託
一食 530円(食事提供加算で実費300円徴収)
朝陽 弁当持参
わくワーク 宝来 3種類の中から選択
炭房ゆるくら デリークック千曲 4種類の中から選択
- ③ 家庭との連携 誕生月の支援会議の実施
モニタリング 継続B 半年・移行3ヶ月
短期入所 3ヶ月
花工房だより 年3回発行
連絡ノートの活用
家族会はコロナ感染症の為中止
- ④ 苦情対応 苦情は利用者支援関連・食品製造関連ともありません
- ⑤ 権利擁護・虐待防止

利用者への言葉遣いで、聞く人によっては虐待ととれる案件が発生した。全職員で虐待とはについて研修をおこなった。

⑥ 防災安全

避難訓練 火災 3月22日・水害 2月12日に実施

GHは3月23日と3月30日に実施

⑦ 研修 福祉サービスは、人を相手に人が行う対人サービスなので勤務年数・携わる事業内容・担っている立場による研修を実施して来ました。本年度は、大半がリモートによる研修でしたので、複数人で視聴できたため学びの場が増えました。

新任職員 集中研修（法人理念・権利擁護・虐待防止・利用者支援・社会人としてのマナー・諸規定等）

施設外研修 新任職員課程

中堅職員 福祉職員のキャリアデザイン・アクションプラン
就労支援のサービスの質の向上と適切な支援とは。

中堅職員課程研修・他事業所見学

リーダー職員 人材育成・研修計画の策定・サービス管理者研修
虐待防止リーダー職員研修

長く働ける職場づくり

専門研修 発達障がい者就労支援研修・HACCPの考え方
衛生管理者研修・基板ネットワーク研修・
苦情対応システム研修・農業労働力確保支援研修
感染症対策研修・地域食材のための販売開拓セミナー

⑧ 地域交流 地域に開かれた事業所として、地域の社会資源としての機能を備えた事業所を目指してきました。

交流 ・川田小4年生・

実習 コロナ感染症拡大防止のため本年は中止とした。

視察 福島郡山コスモス会農福視察・新潟県長岡市NPO法人

(事業部門)

① 日中活動支援事業

多機能型事業所 エコーンファミリー（川中島・今井・朝陽）
生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型

就労継続支援B型 わくワーク（三輪）・炭房ゆるくら（篠ノ井）

② 共同生活援助事業 「さんふれんず」・「さくら」

③ 短期入所事業 「ゆうゆう」

④ タイムケア事業

⑤ 相談支援事業

①～⑤までは、別紙にて報告

令和2年度 多機能型事業所エコーンファミリー事業報告

1、方針・重点目標の成果

毎日元気に通って来れる「居場所」としての役割は、コロナ感染症拡大の中でも事業所を閉鎖することなく、拡大防止策を徹底しながら開所し続けましたので、その役割は果たせたかなと思います。4・5月に在宅支援も申し出た人は6名だけでした。一方で、特性を活かして頑張る「活動の場」即ち、仕事の間は、自主製品の売場が確保できない・商品の注文が来ない・販売に出ても人が買いに来てくださらない等の状況が続く2ヶ月ほどは、何の手立ても打てないまま日々を過ごしておりました。さすがこのままでは。という声がG会議等々で出てき、応援基金という形で多くの皆様に紹介されて、利用者も、製造・販売・配達とそれぞれの場で思いっきり力を発揮することが出来、事業所全体に活気が出てきました。施設内とは別に外（施設外就労）に出て持てる力（労働力）を、フルに発揮した利用者もいました。農家さん・企業さんからの声がけによるお仕事です。これは、エコーンファミリーが目指す地域連携の形でした。

また、コロナ感染症拡大防止を受けた、新しい商品としてテイクアウト出来る弁当・ランチボックス等も開拓され好評を得ました。節目・節目のギフト商品もお客様も動けない中、相手先に商品を送っていただけるなら有難いという事でのメリットもあって、例年になく多くの注文も頂け成果を上げられました。全般的には、イベント開催「0」の波が1年続いことは今まで味わったことの無い苦痛でしたが、コロナだからを理由に逃げてはいられないという気持ちが全職員に芽生え今までにない協力体制が出来たことは紛れもない事実です。

エコーンファミリーが大好きで元気に通って来る利用者の為にこれからも知恵を出し合い目指す目的に向かって頑張りたいと思います。

2、事業内容

職員・利用者数(令和3年3月末現在)

職員数 49人 (正規14人・嘱託11人・パート24人)

利用者数 66人 (男性42人・女性26人)

3、日中活動支援

(1) 生活介護事業 (A・B) 20人 (25人)

就労継続 B 型事業 (はやぶさ・フライル・パン・朝陽) 34人 (40人)

就労移行支援事業 (はやぶさ) 6人 (3人)

各事業の事業報告は、別紙による。

4、余暇活動支援

G 活動 本年度は、生活 A・B・はやぶさ・フライル・パンとそれぞれの G の実態に応じて実施

ハーモニー夢まつり コロナ感染拡大のため中止

土曜活動 年間 27 回行う (担当職員の特技を生かしたメニューで実施)

水泳教室 年間 6 回行う (9 月以降は工事・台風被害の為使用不可)

音楽療法 年間 8 回行う (コロナ感染拡大防止と NPO 法人解散のため大半が中止)

5、工賃支給

	平成元年度	令和 2 年度
売上総額	49364143 円	50719812 円
工賃支払総額	20691500 円	21321100 円
平均工賃額	26189 円 (66 人)	26355 円 (70 人)
就労継続 B 型	33247 円 (40 人)	33994 円 (40 人)

令和 2 年度 生活介護 (Aグループ) 事業報告

1. 重点目標

- ① 作業や活動を通して、地域交流・障がい者理解の推進を実践する。
- ② 家庭と連携を図り、利用者一人ひとりの健康や特性に留意し、個々の意思を尊重した生活習慣の支援。安全を最優先とし、安心して過ごせる環境を整える。

2. 利用者・職員数 (令和 3 年 3 月末日現在)

利用者数 12名 (生活介護 12名)

職員数 8名 (サービス管理責任者 1 名 / 生活支援員 4 名 / 看護師 2 名)

3. 事業内容と成果

- ① 生活全般支援／健康管理、食事、更衣、排泄等・・・利用者さんに大きな事故、怪我等もなく、一年間生活を送ることができた。
- ② 配達・販売／パン・豆腐・小物・花等の配達、販売・・・他の事業所への配達へ利用者さんと一緒に行った。
- ③ 回収作業／牛乳パック・古紙・アルミ缶の回収、分別・・・資源回収は今年度から古紙、新聞紙、段ボール等の回収も行い売り上げにつながった。
- ④ 施設内活動／小物作り・音楽療法・ダンス教室・料理体験・花壇作り季節行事・誕生日会・アート活動・・・音楽療法、ダンス教室、料理体験など職員と利用者さんで楽しんだ。
- ⑤ 施設外活動／水泳教室・バス外出・カシス・ブルーベリー畑の管理 など・・・水泳教室は人数制限やコロナ感染予防の徹底を図って実施できた。バス外出は事故、怪我等もなく楽しく実施できた。

※レクリエーション（外食レク含む）

お花見外出(4月)、小川村外出(8月)、須坂市動物園(10月)、クリスマス会(12月)、節分豆まき(2月)まとめの会(3月)（※新型コロナウイルス感染拡大予防の為、AB合同レク等は実施せず）

4. 売上結果 【 総売り上げ目標：1,450,000円 実績：1,344,013円 】

① 小物部門

(小物・カシス・ブルーベリー、糸コン、スープ等の売上分)

目標：1,150,000円 実績：1,047,285円

② 受託小物部門

(パン受託配達、ワゴンカフェ コーヒー代、資源回収・ロントロール・自動販売機手数料、他)

目標：300,000円 実績：296,728円

令和2年度 生活介護（Bグループ）事業報告

1. 重点目標

- (1) ・日中活動における安全の確保を最優先とし、健康状態、食事、更衣、排泄等の生活全般について援助していく。
 - ・利用者一人ひとりがいきいきと生活し、お互いを尊重し合いながら活動できるような集団作り、環境作りをしていく。

- (2) ・利用者一人ひとりの社会性・作業能力に応じ、適材適所の作業の配置に取り組む。
 - ・生産的活動・余暇的活動の充実を図ることにより、心身ともに生活の質の向上を目指していく。
- (3) ・報告、連絡、相談を徹底し、円滑なコミュニケーションを図りながら利用者支援に努める。
- (4) ・利用者の能力を生かし、充実した活動が提供できるよう、職員同士でアイデアを出し合い実践していく。
- (5) ・リヤカー販売や農作業を通して、地域の障がい者理解を深めていく。

2. 利用者・職員数

利用者 12名（内 生活介護 12名）

職員数 12名（内 正規 3名 嘱託 3名 パート 6名）

3. 事業内容と成果

- (1) 健康管理、生活全般支援・・・コロナ禍ということもあり、販売時の消毒の実施等健康管理には細心の注意を払った。生活全般の支援は利用者さんの年齢の上昇と共に、支援内容も変化しているので、職員会等で情報共有し、最適な援助に努めた。
- (2) 余暇活動・・・水泳教室・ダンス教室・音楽療法を実施した。レクリエーションはコロナ禍ということもあり、外出レクは実施せず室内でクリスマス会等行った。
- (3) 販売、リヤカー販売・・・コロナ禍であったが、それほど販売先の減少などは見られず、継続して行っている。豆菓子やマスクなど新商品を販売し、新たな収益の柱を作ることで豆富だけに頼らない商品構成とした。
- (4) 移動販売・・・曜日ごとに行先を決めて販売している。隔週毎に行先を変えているが、大分定着している。新規に小田切・大岡地区での販売を開始した。
- (5) 豆富の宅配・配達、製造・管理・・・ここ数年定期配達は減少傾向だったものの、新規や再開の動きも出てきている。製造は職員が変わったが、安定して製造を行える体制になっている。
- (6) 畑作業（大豆・野菜の栽培）・・・大豆は夏場の草取りが間に合わず収量減となった。
野菜作りは地域の方に手伝っていただいているおかげで、収量がアップしている。

- (7) ノバ作業等の軽作業・・・室内作業はノバの練習や大豆の選別などを実施した。
- (8) 地域との交流・・・例年実施しているマルキ醤油・川田小学校との大豆まきを実施した。

4. 売上結果

豆富：目標：¥7,000,000	結果：¥6,432,231
麺類：目標：¥250,000	結果：¥277,943
野菜：目標：¥60,000	結果：¥87,810
受託：目標：¥100,000	結果：¥50,380
醤油：目標：¥90,000	結果：¥188,496

合計 ¥7,036,860

令和2年度 就労移行・就労継続B型 はやぶさグループ 事業報告

1. 重点目標

- ① 施設外就労に特化し、高工賃を稼ぐ。
- ② 社会性や働く力を向上させながら、楽しく工賃を稼ぎ、将来自立生活を送れるよう支援する。

2. 利用者・職員数

利用者 15名（継続B型13名、就労移行2名）

職員数 7名（正規2名、嘱託2名、パート3名） 3月31日現在

3. 具体的事業内容

- ①施設外就労…山崎農園、匠電舎、福田青果、小山農園、
信州バイオファーム、丸善ファーム、藤澤農園、北沢農園、
さんさんファーム等
- ②受託作業…エコアンドクリーン、カメラ清掃、メール便、
サンマリーン清掃、パソコン解体等
- ③販売
- ④一般就労支援及び就労学習会(月2回実施)

4. 売上結果

- ①売上目標 施設外就労…4,650,000円 売上結果 5,188,513円
②売上目標 受託作業…1,000,000円 売上結果 1,408,347円

5. 事業成果

- ・施設外就労では、夏のトマト収穫や冬に小松菜収穫・ほうれん草収穫作業を年間通して行うことができ作業代が稼げたので目標を大きく上まわる結果を出すことができた。
- ・委託作業では、パソコン解体作業にて、基板等の部品を入手できる官庁会社との連携がうまくいき多くの部品を出荷することができた。その結果、目標を上まわることができた。
- ・施設外就労では、地域の農家さんに直接教えてもらいながら、一緒に作業をすることにより、相手とのコミュニケーション能力や、社会性、働く力等も身につけることが出来た。

令和2年度 就労継続支援B型 フライルグループ 事業報告 (Flower&Smile グループ)

1.重点目標

- (1) 利用者一人一人の個別支援計画に基づく作業の場を用意し、その特性が充分発揮されるよう支援を行なっていく。
- (2) 将来地域で自立した生活が出来るような十分な工賃が支払えるよう、一日一日の売上をしっかりと把握し、売上目標を達成していく。
- (3) 地域の方たちの障がい者理解を進めていく上でも、地域の活動には積極的に参加し、地域の方たちに支えられながら仕事をしているという感謝の気持ちを持ちながら毎日元気よく仕事をする！

2.利用者・職員数（令和3年3月31日現在）

利用者 18名（継続B型 18名）

職員数 7名（正規2名 嘱託2名 パート3名）

（サービス管理責任者1名・目標工賃達成指導員1名 職業指導員2名・生活支援員3名）

3.事業内容と成果

- ①ハウス作業（花生産・管理、植栽・草取り、フラワーギフト、鉢花作り）
ハウス作業では春にベコニア、ペチュニア、秋にはパンジーとビオラを育成。

県庁プランターや企業（コヤマ・印刷商工・トヨタ・㈱アクセルなど）の花壇に植栽させていただいた。

フラワーギフトは夏の盆花、お正月の葉牡丹寄せ植えを今年は実行し、例年並みに売り上げることが出来た。

②販売・配達（県庁ワゴンカフェ・販売箇所＝20箇所（1ヶ月）／リヤカー販売＝3箇所）

※リヤカー販売は10月以降2箇所、2月以降は0箇所

リヤカー販売は、新型コロナの影響により10月以降の販売先の減少、例年に対し売り上げを伸ばす事が出来なかった。

③下請け作業（ノバフォーム・佐川急便内職作業・倉島事業開発 等）

昨年に引き続き倉島事業開発様の封入作業を継続出来たが、一方で労金内職（夏、冬）封入作業が今年はコロナの影響で受託がなかった。その他の受託事業も例年に比べ頂ける金額が全体的に少なく目標額まで到達することが出来なかった。

④清掃作業（桃の郷・長野駅喫煙所）

清掃部門では月に20回ほどの喫煙所清掃、月8回ほどの桃の郷の清掃と安定したスパンで事を行うことが出来て、利用者も手慣れた様子で作業に取り組むことが出来た。

⑤余暇活動

例年に比べ余暇活動はあまり実行が出来なかった。コロナの影響で3グループに分かれての食事会を1回実行。

4.年間売上目標

・受託、清掃 部門	・・・1,350,000 円	結果；1,087,145 円
・花 部門	・・・5,300,000 円	結果；5,119,108 円

令和2年度 就労継続(パン・スイーツ)事業報告

1、 重点目標

- ① パン、スイーツは収入の主であることを忘れずにお客様から「美味しい」と言ってもらえるように日々技術を向上する。
- ② フラクタル事業で大豆粉を使った商品を教えて頂いたので、安定して製造をできるよう技術を向上する。
- ③ 「働きたい」の思いを支援し、「役に立つ」「必要とされる」「出来た」ことの喜びを利用者さんと職員が共有できる支援を行い、職員が行ってい

る作業は、いつか利用者さんも行えるように技術向上を図る。

2、利用者、職員数

利用者 5名 (内 継続B型 5名)

職員数 7名 (内 正規3名 嘱託2名 パート2名) 3月31日現在

3、具体的事業内容と成果

① パン、サンドイッチ類の開発、製造、販売

2ヶ月に1度程度のペースで新商品を加えることができた。しかし、人員の不足により試作等を行うための人員確保ができず冷凍生地に頼ったものが多く、経費がかかってしまった。

② スイーツ類の開発、製造、販売

パン製造同様人員不足によるものと、専門知識の不足により既存商品の継続にとどまってしまった。既存商品に関しては、ストックを切らさないよう在庫管理を行いながら計画的に製造できた。

③ フラクタル事業での商品開発、製造

ソイチップスを商品としてお客様に提供することができた。販売促進のためポップ等を作成し営業を行ったり、東京の販売会に出向いたりしたが、コロナの影響により思うように営業を行えなかったり、東京に出向くことが難しくなってしまう売り上げは伸び悩んだ。

④ 利用者の技術向上

担当している成型の出来上がりを上達させることに重きを置いた。焼成後の出来栄を本人と確認しながら、よくできたところや改善点を日々振り返り技術向上に努めることができた。職員に関しても技術向上に努め、年度の終わりに加わったパティシエよりシフォンケーキの正しい作り方等、専門知識を伝達してもらった。

4、売り上げ目標と結果 (わくワーク・ゆるくら分含む)

① 23,000,000円 売上結果 20,581,508円

② 3,000,000円 売上結果 2,715,280円

③ 6,000,000円 売上結果 308,320円

計 23,605,108円

令和2年度 朝陽事業所 事業報告

1. 重点目標

① 事業内容での重点

地域に根付いたエコーンファミリー朝陽事業所・おまめ喫茶そいていとなるよう、地域の方たちとの関わりを大切にし、集客に努める。

② 利用者支援に関わる重点

集団生活や仕事をする上で必要なマナーや礼儀を身につけられるよう、地域の方々や 仲間との関わりについて重点的に支援をしていく。

2. 事業内容と成果

① 豆富の販売・配達、配達先や販売先の新規開拓

4～6月は新型コロナウイルスの影響を直に受け、販売や訪問を断られる等、日々対応に苦慮する時期があった。その後コロナ禍で新規開拓できた企業・事業所等を加え、夏～秋にかけて販売先の見直し・整理を行い、1日平均7～8千円の売り上げを維持 することが出来た。

充填豆富については、今まで請負製造していたレアドークとの取引が消失。ギフト企画は、法人で実施した『コロナ応援基金』に加え、夏・冬のギフトを実施した。

② 喫茶営業

定期的な予約利用の他に、食事会のPRをこまめに実施。近くの企業の方がランチに来店することもあった。初めて仕出し弁当を受注し、製造。好評を頂けた。コロナ感染対策の一環として消毒液や検温機、アクリルスタンドを設置。店舗内の消毒や換気等に努めた。

③ 受託作業

コロナ禍での新規作業として、今治マスク（糸くずや汚れをチェックし、封入する）や、防護服（農業用マルチシートを使用。既定サイズでカットしアイロンで接着する）、シトラスリボン作りを単発作業として行った。ポスティングは毎月、期限内に事故なく行えた。

3. 利用者・職員数

- ・利用者数 4名（内 就労継続支援B型3名、生活介護1名）
- ・職員数 4名（内 正規1名、嘱託1名、パート2名）

4. 売上目標（390万円）

売上結果（¥3,907,923）

① 豆富（麺類含む） 260万円

¥2,895,013

② 喫茶営業	120 万円	¥ 944,320
③ ほっとパル他 受託	10 万円	¥ 68,590

令和2年度 就労継続支援B型事業所 わくワーク事業報告

1、重点目標

(1) 事業内容での重点

社会に必要とされ、役に立っていると実感できることを前提としながら、所得の保障が望める事業を実施し、高い工賃の支払を目標とする。

(2) 利用者支援に関わる重点

利用者さん一人ひとりの「その人らしさ」を踏まえながら個々のニーズを的確に汲み取り、サービス等利用計画と連携をしながら、個別支援計画に沿った支援を行ない、「その人らしく」生きることを支援する。

2、職員・利用者数（令和3年3月末日現在）

- ・利用者：定員20名
：現員19名
- ・職員：8名
所長・サービス管理責任者：1名
生活支援員：1名
職業指導員：4名
目標工賃達成指導員：1名
事務担当：1名

令和2年4月	採用1名	令和2年8月	退職1名
令和2年11月	採用1名	令和3年1月	退職1名
令和3年2月	採用1名		

3、事業結果

(1)利用者さん一人ひとりが“必要とされている、役に立っている”実感が持てるように、「くらじか豊農栽培管理」「ころぼっくる」等の地域産業に寄り添った事業を積極的に取り入れた。新型コロナウイルス感染症の影響

響により、作業の中止の影響がある中で、セブンイレブン周囲緑地除草作業、アパート清掃、県立長野図書館の清掃等、新規事業を行なった。

(2) 農福連携事業を積極的に行ない、農業を通じて利用者さんが社会参加することや地域貢献などによる共生型社会の実現に向けて取組みをした。

「フルプロ農園」、「高澤農園」、「平成農園」等で、りんご・ぶどうの袋掛け、りんごの葉摘み、りんごの出荷準備、りんごの剪定枝の片付け、豆の仕分け作業等を行なった。

(3) 利用者さん一人ひとりが、その人らしく元気に通い、働くことができる“居場所”として、サービス提供の充実を図った。利用者さん個々の進行度に合わせた技術指導や、スムーズな作業遂行が実現できるように支援を行なった。加えて、業務に対する責任感およびモチベーションの向上を実現するため、利用者さんの“やりたい”を尊重し、作業配置へとつなげた。

4、売上結果

	令和元年度	令和2年度	
売上総額	7,596,572 円	7,958,975 円	前年度比プラス 362,403 円
平均工賃額	30,906 円 (18 人)	28,769 円 (20 人)	

令和2年度就労継続支援B型事業所炭房ゆるくら事業報告

1. 重点目標

(1) 事業重点

①循環型林業による「total win」のモデルを進化させていく。

林福連携の強化を継続し「あさかわの里山と森を守る会」の事務局としても、利用者と共に地域の林業に貢献する。

薪ステーションの充実も図り（森林税の活用）、薪の安定供給、顧客拡大と共に工賃向上に努める。

②ガーデンクリエイト部門では、企業、個人宅の庭木の剪定、草刈り等を請負して、ガーデンづくりに貢献しながら、工賃アップを目指す。

③施設外就労（エムウエーブ、角藤、コココーラ、小出きのこ園、

DLD、) を継続し、効率を上げ収入向上に努める。

(2) 利用者支援重点

- ①個別支援（個々のストレングスに着目し、やる気、やりがいにつながる作業を計画し、個別支援計画における課題の解消、自立に向けた支援をする。）
- ②チーム支援（施設外就労では、挨拶、身だしなみ、礼儀など習得しながら、一般企業で働く力をつける。）

2. 利用者・職員数（令和3年3月末日現在）

- ・利用者数 18 名
- ・職員数 8 名（内 所長・サービス管理責任者 1 名、生活支援員 2 名、職業指導員 3 名、目標工賃達成指導員 1 名、事務職員 1 名）

3. 事業成果

- (1) ・長野県の森林づくり県民税を活用した、里山整備においては2年目。「あさかわの里山と森を守る会」に事務局として関わり、経費の内、指定区域で活用する経費が助成された。ゆるくらの整備している台ヶ窪地区にて、大勢で整備する日を設けて活動も増えた。
令和2年度厚労省委託事業、障害者就労における林業・水産業等と福祉との連携におけるガイドブック(全国版)に、長野県で唯一推薦を受け、掲載となった。並行して、(株)インサイトの経営コンサルタントを ZOOM で学び、12月から半年かけて今後の事業方針を構築した。
- ・昨年同様、厚労省管轄の建物周辺の草刈り、エムウェーブ、(株)角藤の庭管理、個人宅の草刈り、樹木の剪定作業など新規で参入できるものが増えた。
- (2) ・支援計画に添って支援し、それぞれのニーズに沿う支援を計画的に実施した。利用者1名引っ越しにより他事業所に繋ぎ、1名の利用者入所があった。
- ・様々な施設外就労の計画を立て、実施できた。(エムウェーブ、角藤、DLD、小出きのこ園、コココーラなど)

4. 売上目標・成果

令和2年度	売上目標	売上結果
薪炭事業	3,650,000 円	2,587,039 円
施設外就労	8,000,000 円	9,092,137 円
その他販売	350,000 円	197,038 円
(総額)	12,000,000 円	11,876,214 円
工賃 (月平均)	令和2年度	33,385 円
	重度障害者支援体制加算	35,385 円

令和2年度 グループホーム「共同生活援助」事業報告

1. 事業方針

利用者の意志と人権を尊重し、関係法令を遵守するとともに、出来る限り居宅に近い環境の中で利用者の障害特性を理解した上で、心身の状況や意向を踏まえた食事、排泄、入浴等の生活全般の支援を行います。

2. 利用者・職員数 (令和2年3月末日 現在)

<利用者>

	さんふれんず	さくら
定員	5名	6名
現員	男性 5名	女性 6名

- ・退所 1名 (他入所事業所へ)
- ・入所 1名 (エコーンファミリー利用者)

<職員>

職種	員数	常勤		非常勤	
		専従	兼務	専従	兼務
管理者	1		1		
サービス管理責任者	1		1		
生活支援員	7	2		5	
世話人	8	2		6	
事務員	1		1		

3. 事業成果

- ① 各種生活援助サービスの提供、共同生活介護サービスの提供
- ② 体制
月～日曜（GW・お盆・年末年始休暇有） 24時間（夜間支援体制）
年間利用回数（一人平均）さんふれんず 317回／さくら 213回
- ③ 連絡会議
実施回数 年1回（世話人・管理者・サービス管理責任者）
内容：利用者の様子・支援について・その他業務についての連絡・確認等
必要に応じてその都度実施した。
- ④ 研修・会議（コロナ影響により中止あり。）
くらし部会（長野市ふくしネット）、地域支援部会（知障協）への参加。
- ⑤ 余暇活動・地域との連携
エコーンファミリーでの土曜活動、誕生日会（利用者の誕生日）、クリスマス会など地区の清掃活動への出席、ゴミ集積所の当番
- ⑥ 健康診断
11月24日（月）・25日（火）（エコーンファミリーと併せて実施）

令和2年度 「短期入所事業ゆうゆう」 事業報告

1、事業方針 在宅等において介護者の疾病やその他の理由により、短期間の入所を必要とする障害者に対し、入浴、排泄、又は食事等の介護や日常生活上の支援を提供し、障害者等及び家族の福祉の向上を図ることを目的とする。

2、利用者・職員数

・利用者34名（内 男性25名 女性9名）
長野市：28名 千曲市3名

・職員数 管理者（兼） 1名
生活支援員 2名

3、事業成果

- ①入浴・排泄 必要に応じて介助や見守りを実施した。
- ②起床・入床 起床時間（6：00～7：00）
入床時間（20：00～22：00）本人の意思を尊重し、

- 援助した。
- ③脱衣 必要に応じて介助、確認した。
 - ④整容 毎食後の歯磨き援助、介助、確認。洗面の援助、介助、見守り等、個性を尊重した適切な整容を援助した。
 - ⑤食事 栄養と利用者の身体状況や嗜好に配慮し、バラエティーに富んだ手作りの食事を提供した。
 - ⑥感染対策 コロナウイルス感染対策として来所時、起床時の検温、消毒、手洗いうがいを実施した。

<月別利用者数>

4月	23名	5月	23名	6月	27名
7月	25名	8月	26名	9月	24名
10月	24名	11月	26名	12月	29名
1月	27名	2月	29名	3月	30名

(*年間利用者数 延べ 313名 利用回数 626回)

(*利用回数は 1泊2日=2回 でカウント)

令和2年度 「タイムケア事業」 事業報告

1. 事業方針

障害者の日常生活の継続的な支援を図るため、家族の急な用事・都合等の理由により、障害者の在宅での介護が困難な場合において、タイムケアを実施する。

2. 利用者・職員数 (令和3年度 3月末日現在)

管理者		1名		
サービス管理責任者		1名		
支援員		1名	(利用状況に応じて増員)	
登録人数	長野市	29名	(男 19名	女 10名)
	千曲市	4名	(男 2名	女 2名)
	須坂市	1名	(男 1名)	
	飯綱町	1名	(男 1名)	
	計	35名		

3. 事業成果

家族の不幸等の急な都合により、在宅での介護が困難な場合に、職員体勢を整え、当施設でのタイムケアを実施した。

月別利用者数

4月	7名 (24時間)	5月	3名 (8.5時間)
6月	4名 (17時間)	7月	5名 (22.5時間)
8月	6名 (22時間)	9月	7名 (32.25時間)
10月	5名 (22.5時間)	11月	3名 (18.5時間)
12月	5名 (20.5時間)	1月	5名 (19.5時間)
2月	6名 (21.75時間)	3月	6名 (32時間)

年間延べ数

62名 (261時間)

令和2年度 相談支援事業 事業報告

1. 事業方針

- (1) 事業の運営に当たっては、市町村・障害福祉サービス事業所・他の関係機関等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善・開発に努める。
- (2) 指定特定相談支援の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に当該障害者の立場に立って、支給決定障害者等に提供される障害福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行なう。

2. 職員数

・職員体制：相談支援専門員 1名

3. 事業成果

- ・日常生活全般に関する相談（情報提供、連絡調整、相談等）
担当職員と連携し、より良いサービスが提供できるように努めました。
- ・アセスメントの実施
生活状況を把握・理解し、ニーズの把握に努めました。
長期休みをしており、施設利用が滞っている利用者に対して担当職員、サービス

管理責任者と連携しながら、自宅訪問を行ない保護者との信頼関係を構築しながら、丁寧に現状を聞き取り、施設利用に繋がるように努めました。

- ・サービス等利用計画案の作成

特定の障害福祉サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行ないました。

ご本人、ご家族のニーズに沿った計画案の作成に努めました。

- ・サービス担当者会議の開催

市町村や障害福祉サービス事業者等、関係機関との連携を図り支援会議を開催しました。

- ・サービス等利用計画の作成

- ・継続的な評価「モニタリング」の実施

サービス等利用計画の作成	84 件
エコーン利用者	78 件
外部利用者	6 件

モニタリングの実施	114 件
エコーン利用者	102 件
外部利用者	12 件